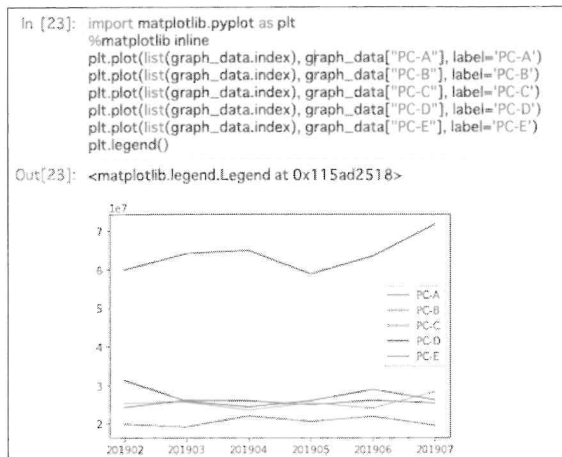


■図1-14：月別、商品別売上推移



1、2行目は、matplotlibの読み込みと、Jupyter-Notebook上で表記するためのコードです。

3行目から7行目で商品毎にグラフの描画をしており、8行目で凡例の表示を指定しています。

matplotlibのグラフ描画は、横軸、縦軸の順番に指定します。横軸は、payment_monthなので、graph_data.indexで呼び出しており、リスト型に変換して渡しています。縦軸は商品毎の売上なので、graph_dataの列を指定して渡しています。labelを表記することで、凡例に表示されます。

グラフにすることで、一目でPC-Eが売上を牽引している機種であることや、売上の傾向を掴むことができます。

こういった可視化も行いながら、分析を進め、現場の人に説明をしていくのが重要です。



これで、最初の10本ノックは終了です。

データを読み込むことからはじめ、分析できる形にデータを加工し、集計、可視化までを行いました。今回のデータでは比較的綺麗なデータだったため、あま

り躓くことなく分析の一連の流れを理解できたのではないのでしょうか。綺麗なデータとはいえ、これまでの例題にあるような加工済みのデータではなく、自分なりにデータと対話しながら、分析を進めていくプロセスは非常に大きな一歩となります。

次章では、システムではなく人間の手で管理されているデータを処理していきます。